

企画
部会

〜ご命日に聞く〜

悲しみからみえたもの

ご命日の思いを聞かせていただくと決まった時、私が頭に浮かんだのは、平成21年8月4日に亡くなった父(59歳)のことでした。亡くなった時は、周りのことなど考えられず、父のいない私の人生など考えられないと思っていました。それから年月が経った今、今まで聞いたことのなかった母の思いを聞きたいと思いました。

新保 ご主人はどのようなお人柄でしたか。

母 家族の為に働き、まっすぐに生き、私にも子どもたちにも言葉は少なく背中では父親の生き様を教えてくれた人でしたね。家族おもいで仕事熱心、男とは：昭和の生き残りの父であり男でした。

新保 ご主人がお亡くなりになられた時の状況、その時起こった感情や思いをお聞かせ下さい。

母 肺がんで最後は静かに息を

ひきとりました。その時の思いは、涙も出さず自分の心はどこに行ってしまったのかと。記憶に残らないほど次から次へとすべきことに追われ、どうして良いか分からなかったです。何も出来ない自分がいて後悔ばかり。今もその思いでいっぱいです。「何も出来ない」「出来ていない」と思われているんだらうな」と自分を追い詰めて難しい時期でした。人に迷惑をかけたかどうかという緊張感で自分が死にそうになりました。

新保 ご主人を亡くされてしばらくの間、どのような気持ちで過ごされましたか。

母 悲しい、辛いという気持ちが一番先に来るのではなく、残された問題(会社・銀行・法的手続き・相続など)が多すぎて大変でした。四十九日まではあつという間で、納骨してから淋しさで一人になると

涙が出てくるんですね。

新保 ご主人を亡くされて改めて気づいたこと・教えられたことがありましたらお聞かせ下さい。

母 私は働いて30年位経ちますが、夫がいるという事で社会から信用と守りをもらっていたことに気づきました。自分一人になると職場も家庭も激変。見える景色は少し変わってききましたよ。教えられたことは、健康、働き方や余暇のつくり方。無理をしない事、シンプルに生きる。自分らしく生きていれば幸せでいれるかな。泣いて生きていくのも一生、どうせなら笑って楽しく生きていこうと。母は元氣じゃなきゃね。

新保 どんな時にご主人を思い出しますか。

母 悩み事の時、お父さんならどんな言葉をくれるかな。子ども・孫たちの成長と一緒に

見てほしかったな。ご夫婦で旅行している人たちを見かけた時、一緒に歩いて楽しめたかったな。と同時に、夫の様な男の人には私が生きている限り出会うことはないと思っています。

新保 あなたにとって「ご命日」とはどのような日ですか。

母 夫が亡くなって9年。月命日は、私と亡き夫が向き合う時間。祥月命日は、子どもたち、孫、友人が集まり、皆元氣であることを報告。美味しい食事をしながら思い出話に花が咲く時間です。

新保 お寺とお付き合いされて、今どうですか。

母 私がお世話になっているお寺(他宗寺院)はほとんど大きくなり、少しずつ遠くなつていく様な感じです。節目にはお金がかかりますしね。私もお寺に積極的に足を運ばないことを反省しています。考えるところはたくさんあります。

新保 あなたにとってお寺さんとはどのような存在ですか。

母 毎月のお参りも使用人のお坊さんが来るので、住職に会うことが少なくなりました。年忌のお願いをするだけです。

新保 お寺に求めるものはありますか。